

加藤知世子全句集

加藤知世子全句集



邑書林

加藤知世子全句集

一九九一年四月十日発行

著者 加藤知世子

発行者 土橋寿子

発行所 邑書林

東京都目黒区中根二丁目一四〇三・千152

電話 〇三(三七二四)三〇三二

振替 東京〇一五五八三二

装幀 川田 幹

印刷・製本 三和印刷株式会社

定価 九六四〇円(本体九三五九円)

加藤知世子全句集 * 目次

第一句集・冬萌

寒子等の子
紅文綴
青羽の
二朝の
死後の願
悪檻の囀
箱入の囀
雪響き
笹鳴

木夢椿り竹雀鏡ひ妻り妻て鳴

73 63 55 53 48 43 36 32 31 27 22 18 15 13

第二句集・朱鷺

昭和二十八年

ふるさと(一) 四国の旅

昭和二十九年

雪の信濃路 みちのくを行く 汗の黙(補遺)
晩秋の上高地

昭和三十年

裏日本の春 ふるさと(二) 時雨忌の旅

昭和三十一年

冬の秩父鉦山 緑の東北 嵐の富士

昭和三十三年

奥佐渡の春 歌の譜 雲の阿蘇

昭和三十三年

笠雲 埋火

昭和三十四年

繭組む音 思惟仏

156

145

132

120

108

92

81

79

昭和三十五年

恋の記憶

昭和三十六年

鷺鷹

あ と が き

第三句集・太麻由良

昭和三十七年

奥佐渡の早春 鴨弱音 頰杖仏 猿蓑行

昭和三十八年

長崎・阿蘇 月のアルプス 雪の幻想

昭和三十九年

秘仏 雪こだま

昭和四十年

みちのく 草の香

222

211

199

187

185

182

172

165

昭和四十一年

微笑弥勒 三井寺周辺

昭和四十二年

地震の翳り 一茶忌

昭和四十三年

木曾路 絹傘草 修那羅峠

あ と が き

第四句集・夢たがへ

昭和四十四年

奥越後 闇彦

昭和四十五年

七こだま ナセル死す

昭和四十六年

実験猫 心の隅

288

282

273

271

268

253

243

232

昭和四十七年

拍手

昭和四十八年

泣き仏

昭和四十九年

延年の舞 秘仏

昭和五十年

華意竹情

昭和五十一年

デスペア

あ と が き

第五句集・飛燕草—シルクロードを行く

昭和四十五年

渡り鳥

329

327

325

318

312

307

302

297

昭和四十七年

白夜

昭和四十九年

晩禱

昭和五十年

復活

昭和五十一年

カスピ海

昭和五十三年

翡翠塔

昭和五十四年

天山北路

昭和五十六年

飛燕草

あ
と
が
き

374

369

359

356

351

347

339

332

第六句集・頰杖

句集未収録初期作品集

あ	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭	昭
と	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和	和
が	六	五	五	五	五	五	五	五	五	五	五
き	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十	十
	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年	年

加藤楸邨

437 434 422 416 411 406 401 397 393 387 381 379 377

雪の印象

静と動と光りの中から

夫楸邨

夫との俳話

楸邨と硯

楸邨と旅

七十路の手習ひ

楸邨を横から見て

楸邨の歌から俳句への歩み

楸邨が国外の俳句に求めたもの

夫婦の埋めくさ

503 493 489 480 476 472 465 461 459 450 449 447

悪路王―楸邨の日常

514

老風口の道

517

略年譜

小檜山繁子編

523

俳句的会話（あとがきに替へて）

加藤楸邨

535

句集解題

石寒太

題 簽

加藤楸邨

装 釘

川田 幹

加藤知世子全句集

冬

萌

(第一句集)

〔冬萌・解題〕

昭和二十八年五月三十一日、書肆ユリイカ刊。B六判変形、上製紙表紙カバー装。一九六頁、三句組。昭和十六年から昭和二十八年までの作品四六六句を収める。口絵として、着物姿の肖像写真一葉。目次が奥付の前に置かれ、序文・あとがきの類は無い。発行者・伊達得夫、印刷所・東京商業美術印刷。装丁者の記載は無い。定価二五〇円。

句集名の「冬萌」は化粧扉では「冬萌」となつてゐるが、今回の収録に際しては、表紙・カバーの「冬萌」の表記にしたがつた。